

3 現在の収入と生活費からみた余裕度

収入は頭打ちになっても家計にはゆとり

バブル崩壊後の“失われた10年”の間に企業の終身雇用制度と年功序列賃金制度は崩れ、リストラの対象とされ収入ダウン、失業の増加などで、団塊世代のお財布事情については悲観的な見方も多い。事実、年齢別の賃金の変化をみると、かつては50歳代半ばまで賃金が上昇していたのが、近年では、40歳代後半がピークで、50歳代に入ると徐々に低下するようになっている。

しかし、収入は減少傾向にあるとはいえ、徐々に家計にゆとりが出てくる世代であることは間違いない。50歳代前半と後半の毎月の支出の内訳を比較すると、ほとんどの項目には数千円の差しかないのが、教育費が2万円以上少なくなり、その分、夫婦だけのために消費できる裁量部分が急速に拡大していくわけである。

コラム

団塊世代をターゲットにした商品開発も

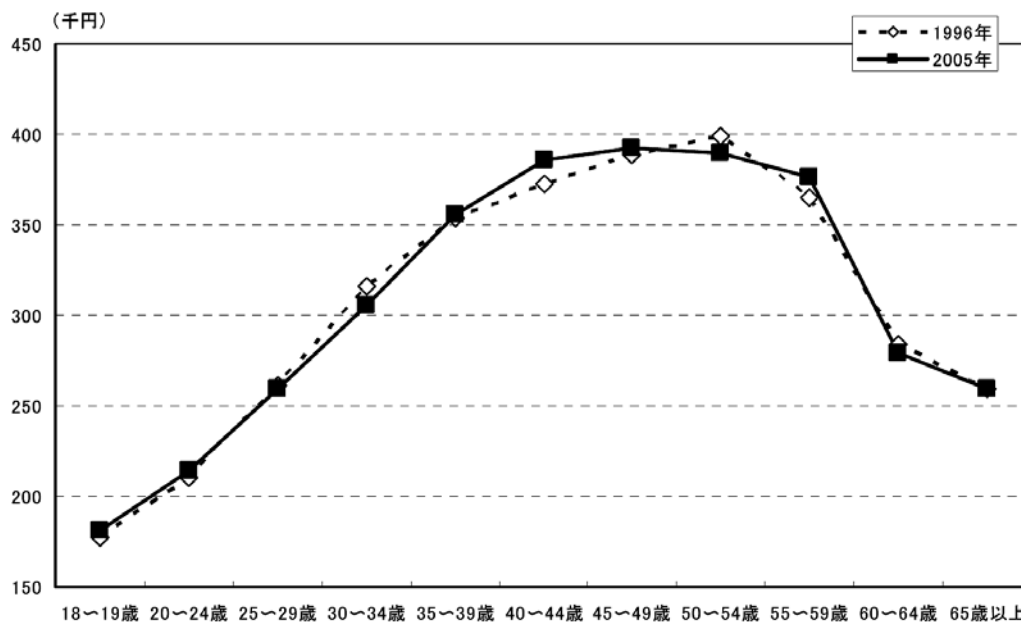
今後の団塊世代の生活や収入、生活費構造の変化をにらんで、新たな商品開発が活発化している。しかし、彼らのニーズを需要につなげるためには、これまでにない戦略・戦術が必要になってくる。ある程度お金もあり、経験も積んでいる団塊世代だけに、それにふさわしい対応が求められるのである。たとえば

。旅行業界大手のJTBIは、団塊世代を意識した高品質の旅行を販売する「ロイヤルロード銀座」を開設。少人数グループで行くヨーロッパ旅行、国内外の豪華客船によるクルーズなどを扱って人気を集めている。店舗も一般の店舗と異なり、落ち着いた雰囲気、担当者には経験豊かなベテランを配し、店頭での打合せだけでなく、個人宅を訪問しての打合せも可能としている。

個人旅行では、航空機はビジネスクラス、ファーストクラスの利用が基本で、ホテルは厳選された一流ホテルに限定、部屋タイプ、眺望なども指定できる。現地では現地の事情に精通したガイドを付け、リムジンタイプの専用車も利用できるなど、細部に至るまでこだわりを徹底している。

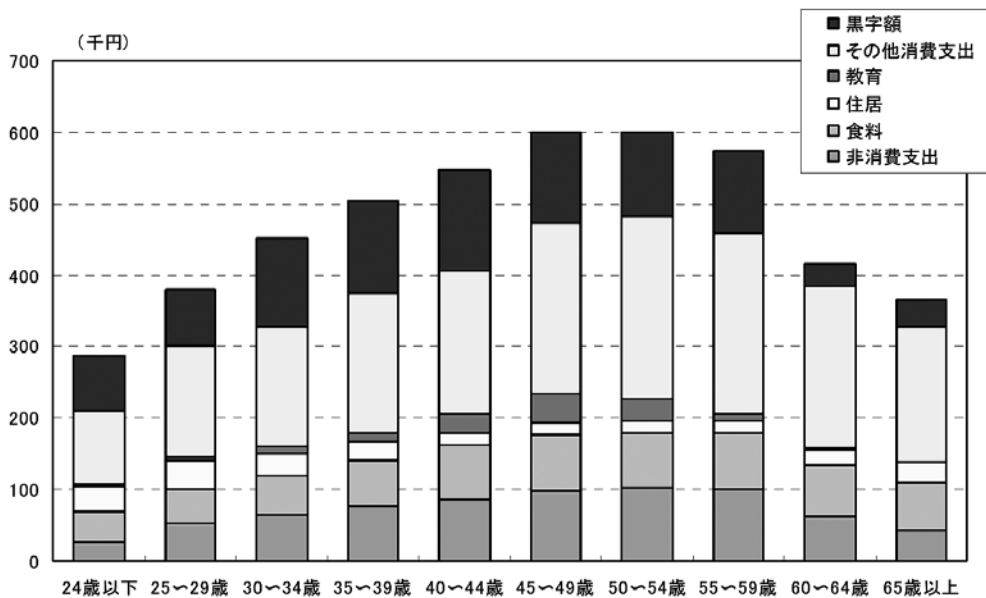
また、小グループの「匠人の設計する旅行」と題したツアーでは、その道の専門家がツアーを企画、現地でのガイドも行う仕組み。たとえば、「ステンドグラスの絵解きと美を探訪」と題したパリ・ロワール8日間の旅では、パリ郊外にアトリエを持つ、ステンドグラス作家・研究家の志田政人氏がガイド役。料金は1人当たり約50万円と一般のツアー料金の2倍以上の設定だが、各回とも定員を上回る申込みがあり、高い人気を得ている。

年齢別平均賃金



出典：厚生労働省『賃金構造基本統計調査』(2005年)

年齢別家計支出



出典：総務省統計局『家計調査』(2005年)